

平成28年社会生活基本調査（生活行動編）

－石川県結果の概要－

● 社会生活基本調査とは

（1） 調査目的

社会生活基本調査は、国民の生活時間の配分及び自由時間等における主な活動について調査し、各種行政施策の基礎資料を得ることを目的とし、昭和51年の第1回調査以来5年ごとに実施している。

（2） 調査対象

全国の世帯から無作為に選定した約8万8千世帯に居住する10歳以上の世帯員
石川県では約1,600世帯に居住する10歳以上の世帯員を対象とした。

（3） 調査時期

平成28年10月20日現在で実施した。

● 生活行動に関する結果（生活行動編）

自由時間等における過去1年間における主な活動

- 1 学習・自己啓発・訓練
- 2 ボランティア活動
- 3 スポーツ
- 4 趣味・娯楽
- 5 旅行・娯楽

<用語の解説>

行動者数・・・ 過去1年間に該当する種類の活動を行った人（10歳以上）の数
（※石川県の10歳以上の推定人口は、1,016千人）

行動者率・・・ 10歳以上人口に占める行動者数の割合（％）

※ この結果は、総務省統計局が公表した結果の抜粋です。詳しい結果内容や全国の結果につきましては、総務省統計局HP社会生活基本調査のページをご覧ください。

<http://www.stat.go.jp/data/shakai/2016/index.htm>

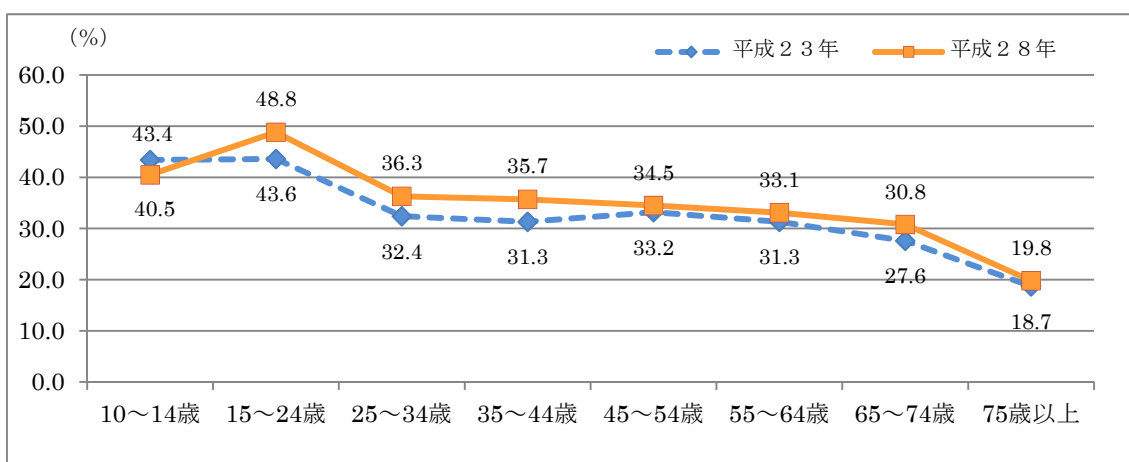
1 学習・自己啓発・訓練

「学習・自己啓発・訓練」の行動者率は34.1%で、5年前より2.4ポイント上昇

過去1年間（平成27年10月20日～平成28年10月19日。以下同じ）に「学習・自己啓発・訓練」を行った県民（10歳以上）の数（行動者数。以下同じ）は347千人で、10歳以上の人口に占める割合（行動者率。以下同じ）は、34.1%（全国36.9%）となっている。平成23年と比べると2.4ポイント上昇している。

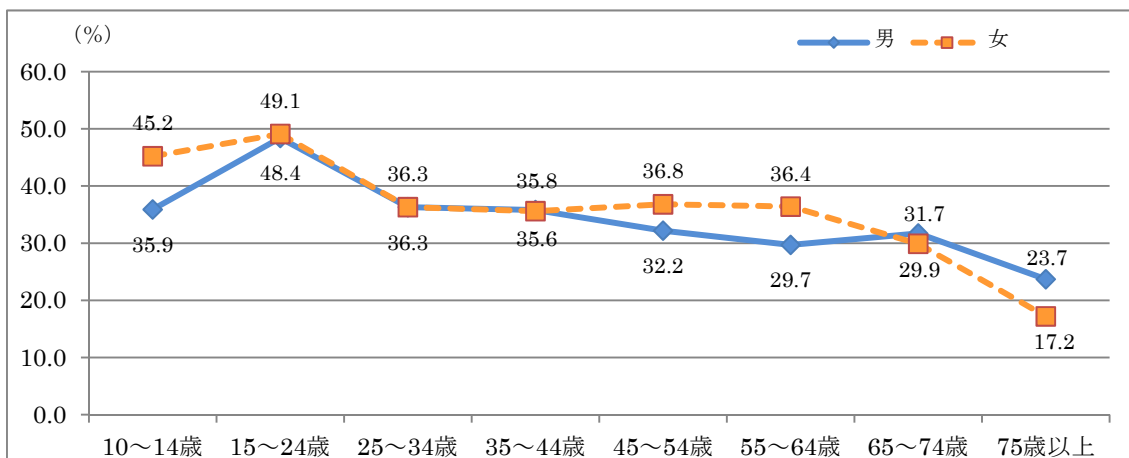
行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳を除く全ての年齢階級で上昇している。（図1-1）

図1-1 「学習・自己啓発・訓練」の年齢階級別行動者率（平成23年、平成28年）



行動者数を男女別にみると、男性が168千人、女性は178千人となっており、行動者率は男性が34.1%（全国36.5%）、女性が34.1%（同37.4%）と同率となっている。年齢階級別でみると、男女とも15～24歳が一番高くなっている。（図1-2）

図1-2 「学習・自己啓発・訓練」の男女、年齢階級別行動者率

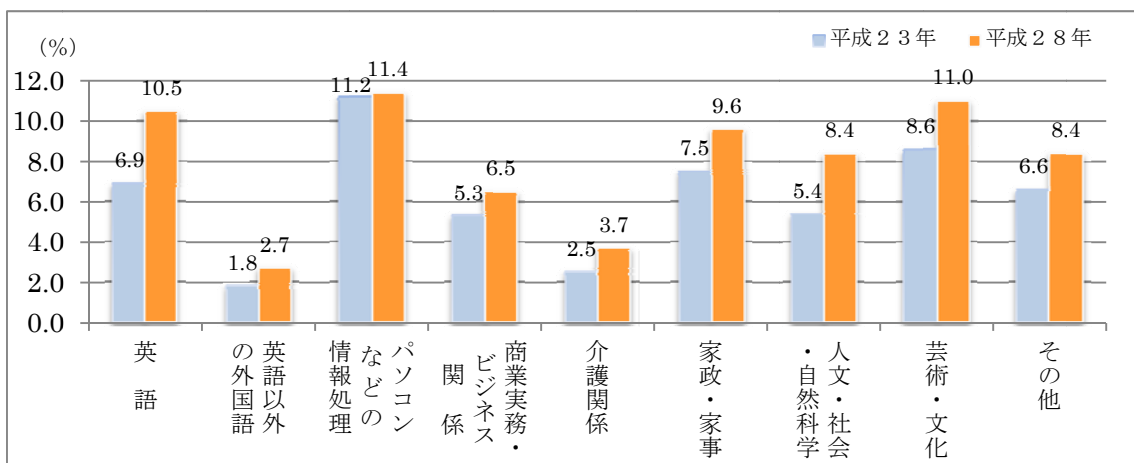


男性は「パソコンなどの情報処理」の行動者率が最も高く、女性は「家政・家事」の行動者率が最も高い

種類別に行動者率をみると、「パソコンなどの情報処理」が11.4%と最も高く、「芸術・文化」が11.0%と続いている。

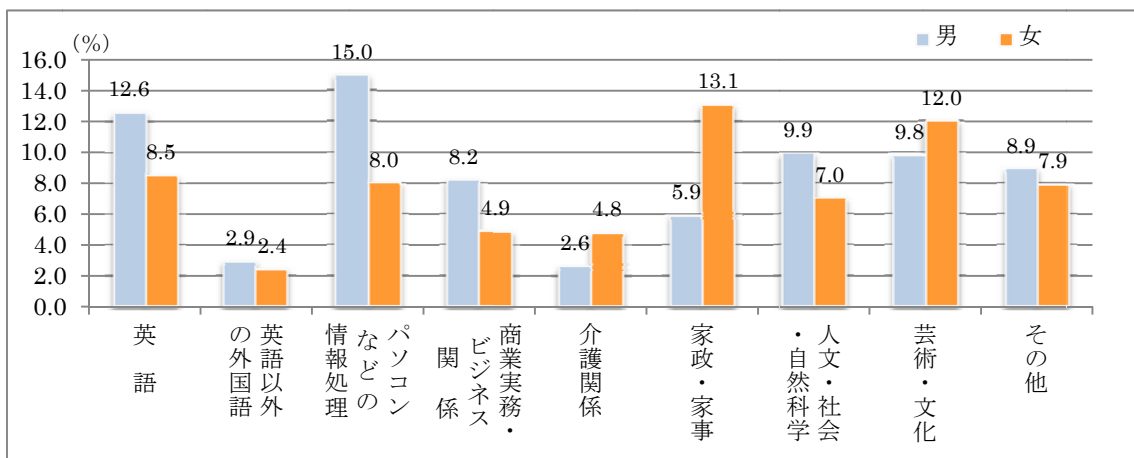
これを、平成23年と比べると「英語」が3.6ポイント上昇、「人文・社会・自然科学」が3.0ポイント上昇などとなっており、全ての種類で上昇している。(図1-3)

図1-3 「学習・自己啓発・訓練」の種類別行動者率(平成23年、平成28年)



種類・男女別にみると男性は「パソコンなどの情報処理」が15.0%と最も高く、次いで「英語」が12.6%、女性は「家政・家事」が13.1%と最も高く、次いで「芸術・文化」が12.0%となっている。(図1-4)

図1-4 「学習・自己啓発・訓練」の種類、男女別行動者率



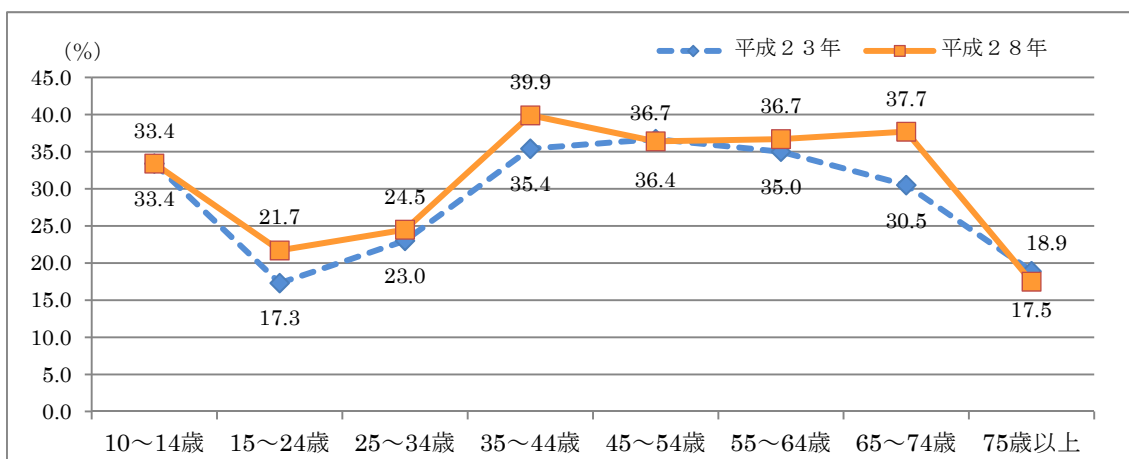
2 ボランティア活動

「ボランティア活動」の行動者率は31.6%で、5年前より2.4ポイント上昇

「ボランティア活動」の行動者数は321千人で、行動者率は31.6%（全国26.0%）で平成23年と比べると2.4ポイント上昇している。

行動者率を年齢階級別にみると、35～44歳が39.9%と最も高くなっている。（図2-1）

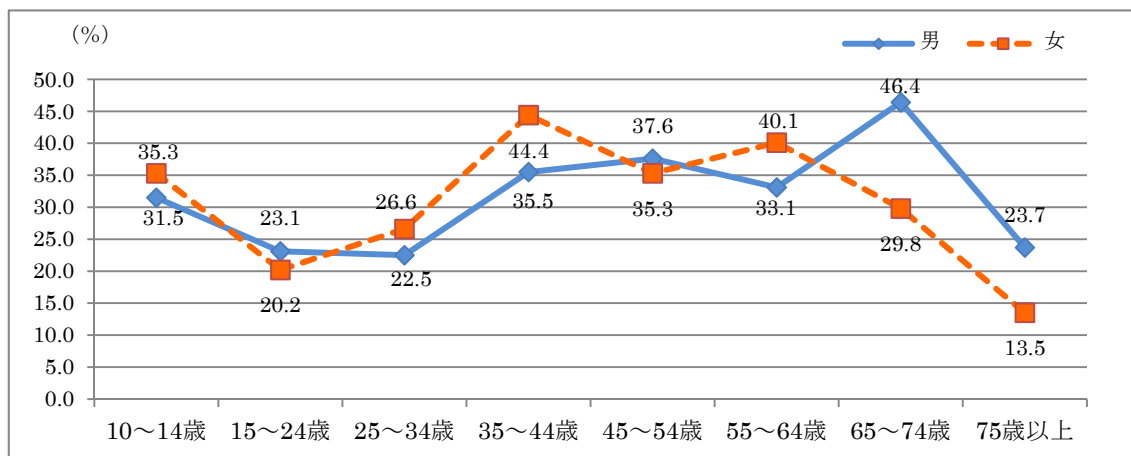
図2-1 「ボランティア活動」の年齢階級別行動者率（平成23年、平成28年）



行動者数を男女別にみると、男性が162千人、女性が160千人となっており、行動者率は、男性が32.7%、（全国25.0%）、女性は30.6%、（全国26.9%）となっており、全国と比較して特に男性の行動者率は高い水準となっている。

年齢階級別でみると、男性では65～74歳で最も高い46.4%となっており、女性では35～44歳で最も高い44.4%となっている。（図2-2）

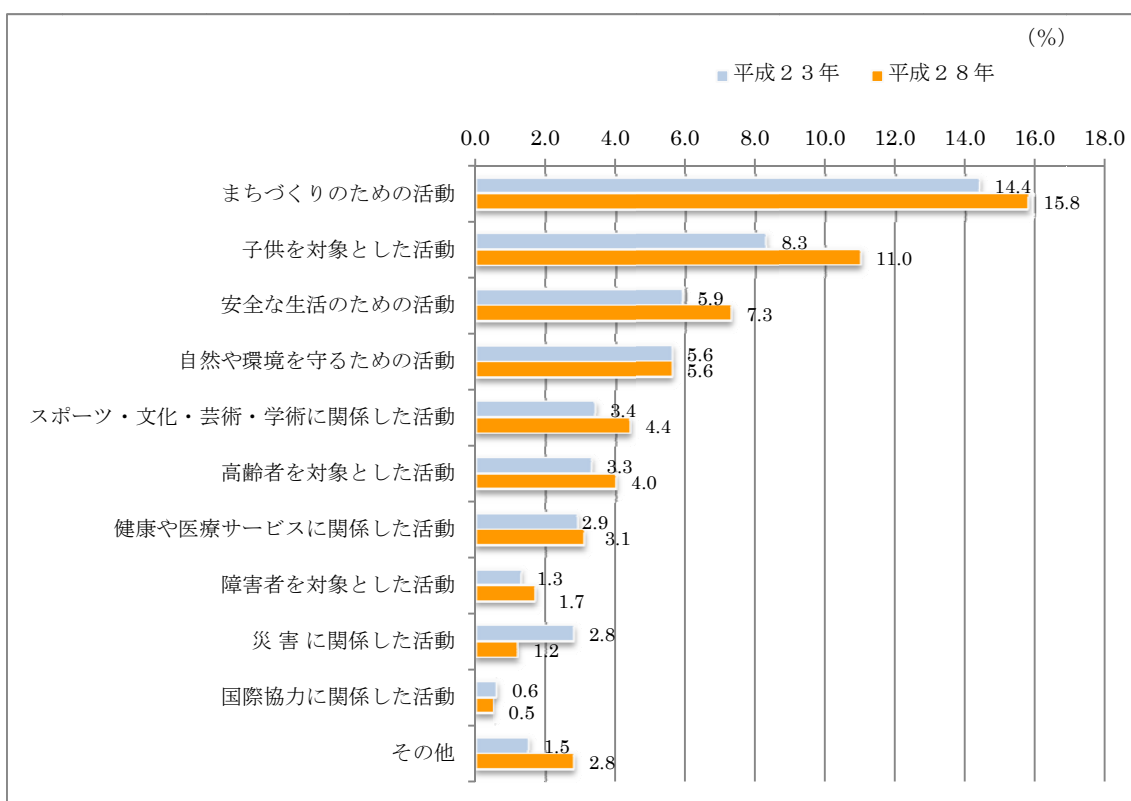
図2-2 「ボランティア活動」男女、年齢階級別の行動者率



「子供を対象とした活動」の行動者率は11.0%で、5年前より2.7ポイント上昇

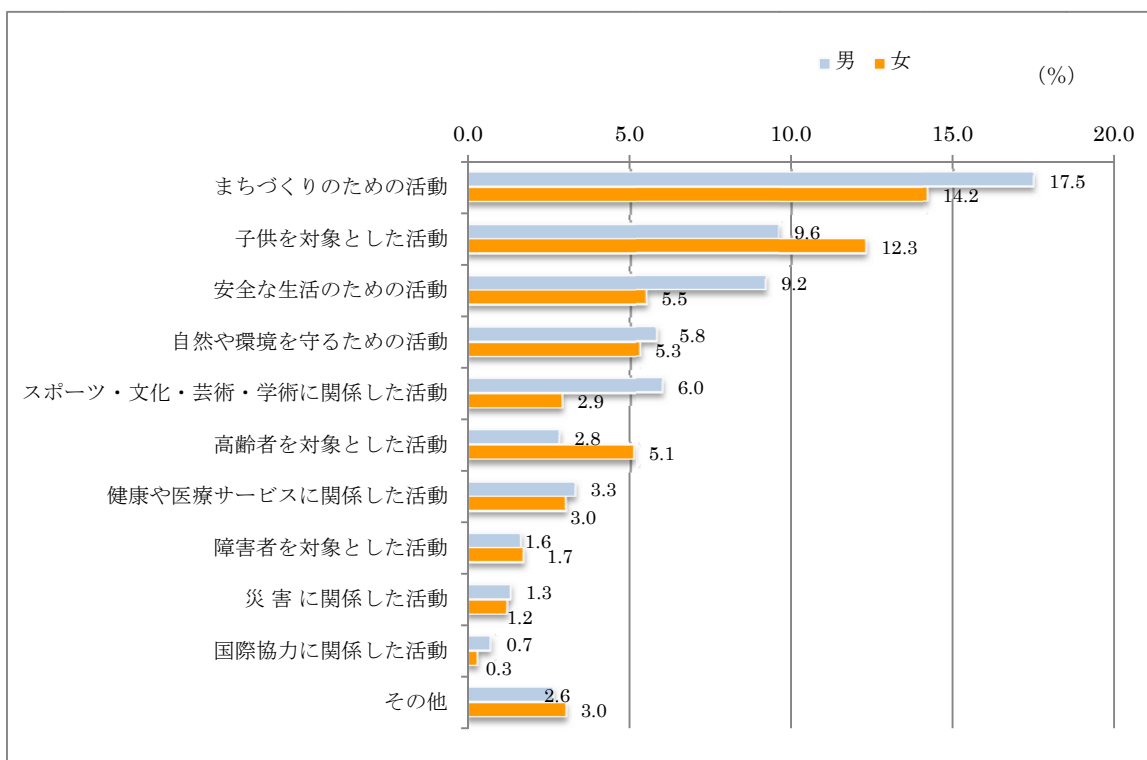
種類別に行動者率をみると、「まちづくりのための活動」が15.8%と最も高く、次いで「子供を対象とした活動」が11.0%、「安全な生活のための活動」、「自然や環境を守るための活動」と続いている。平成23年と比べると「子供を対象とした活動」が2.7ポイント上昇したほか、7項目で上昇している。(図2-3)

図2-3 「ボランティア活動」の種類別行動者率（平成23年、平成28年）



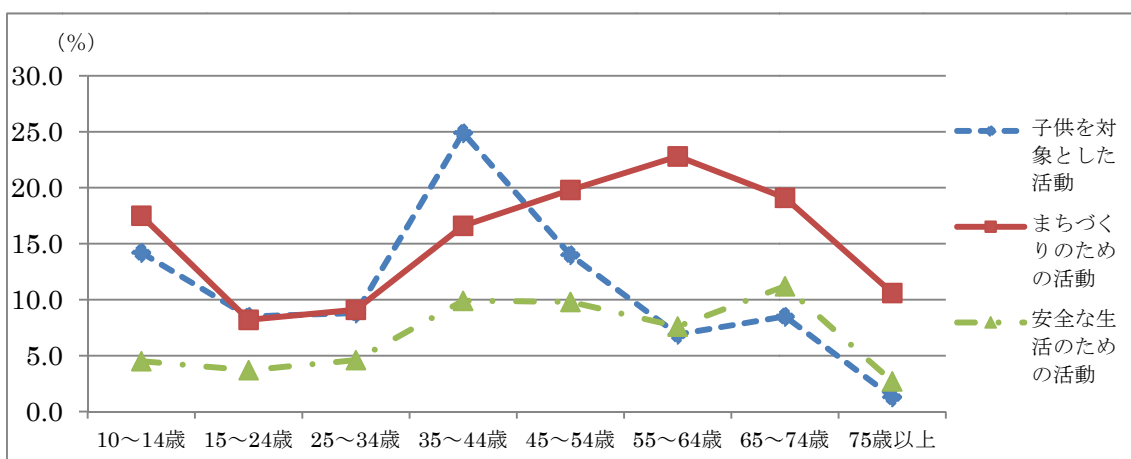
行動者率を男女別にみると、男女とも「まちづくりのための活動」が最も高く、次いで「子供を対象とした活動」となっている。(図2-4)

図2-4 「ボランティア活動」の種類、男女別行動者率



年齢階級別に主な種類をみると、35～44歳では「子供を対象とした活動」が高く、45歳以上では「まちづくりのための活動」が高くなっている。(図2-5)

図2-5 主な「ボランティア活動」の種類 年齢階級別行動者率



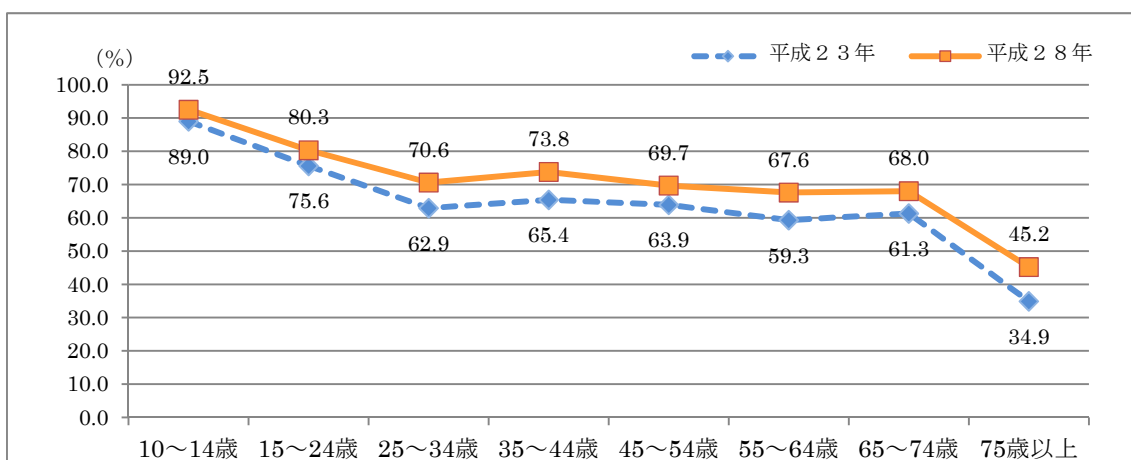
3 スポーツ

「スポーツ」の行動者率は69.1%で、5年前より7.0ポイント上昇

「スポーツ」の行動者数は702千人で、行動者率は69.1%（全国68.8%）で平成23年と比べると7.0ポイント上昇している。

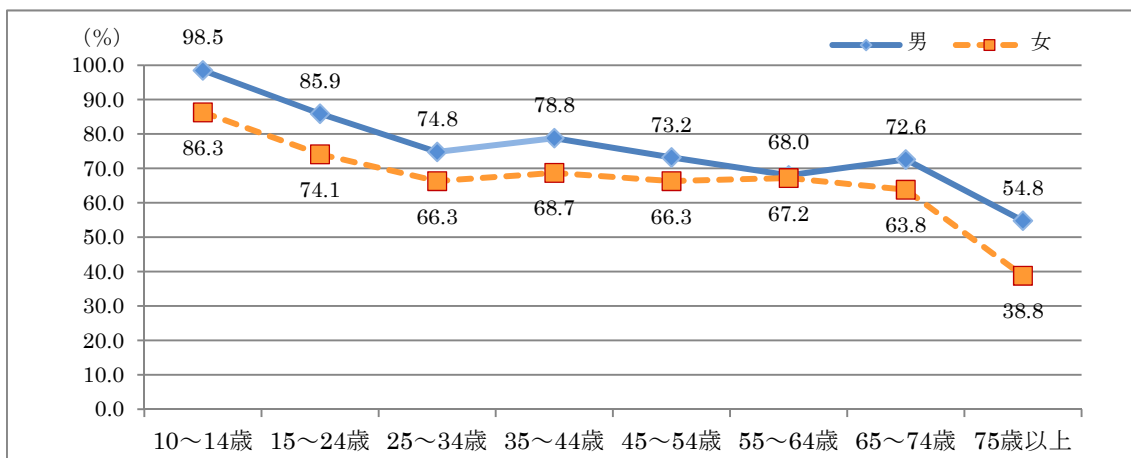
行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が92.5%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。（図3-1）

図3-1 「スポーツ」の年齢階級別行動者率（平成23年、平成28年）



行動者数を男女別にみると男性が368千人、女性は334千人となっており、行動者率は男性が74.4%（全国73.5%）、女性が64.0%（同64.4%）となっており、男性のほうが女性より、10.4ポイント高く、すべての年齢階級で男性の方が高くなっている。（図3-2）

図3-2 「スポーツ」の男女、年齢階級別行動者率

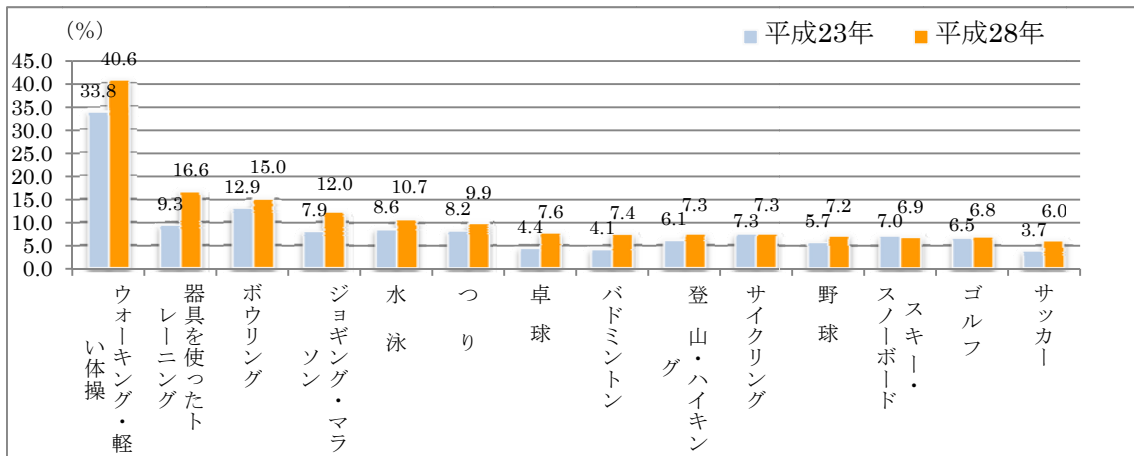


行動者率は「ウォーキング・軽い体操」が最も高い

種類別行動者率をみると、「ウォーキング・軽い体操」が40.6%と最も高く、次いで「器具を使ったトレーニング」16.6%となっている。

これを平成23年と比べると「ウォーキング・軽い体操」が6.8ポイントと上昇したほか、多くの項目で上昇している。(図3-3)

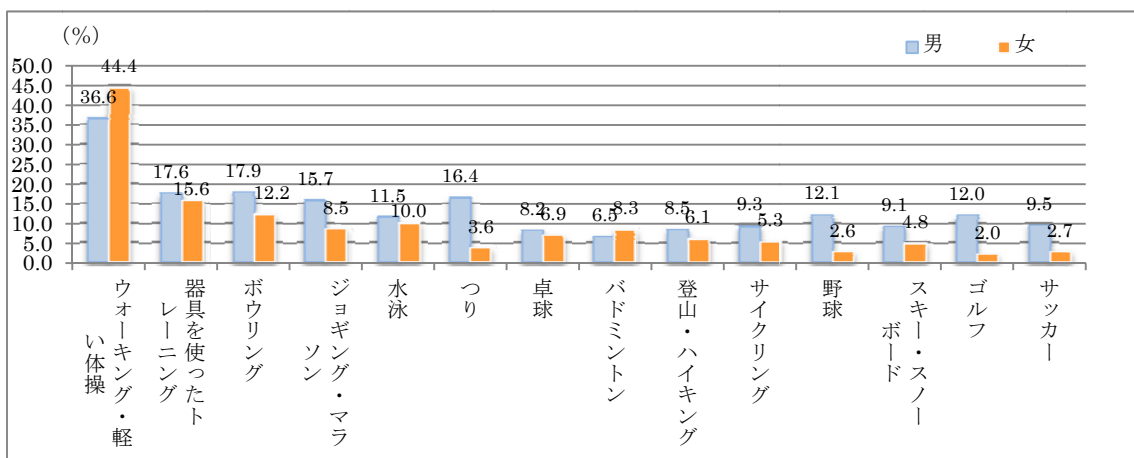
図3-3 「スポーツ」の種類別行動者率(平成23年、平成28年)



注)「スポーツ」のうち主な種類を掲載

種類・男女別にみると男女とも「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、以下男性は「ボウリング」、「器具を使ったトレーニング」、「つり」と続き、女性は「器具を使ったトレーニング」、「ボウリング」、「水泳」となっている。(図3-4)

図3-4 「スポーツ」の種類、男女別行動者率



注)「スポーツ」のうち主な種類を掲載

年齢階級別に主な種類をみると、10～14歳では「水泳」が最も高く、15歳以上のすべての年齢階級で「ウォーキング・軽い体操」が最も高くなっている。（表1）

表1 「スポーツ」の種類、年齢階級別行動者率の順位

	1位	2位	3位
10～14歳	水泳	ボウリング	ジョギング・マラソン
15～24歳	ウォーキング・軽い体操	ボウリング	ジョギング・マラソン
25～34歳	ウォーキング・軽い体操	ボウリング	ジョギング・マラソン
35～44歳	ウォーキング・軽い体操	ボウリング	水泳
45～54歳	ウォーキング・軽い体操	器具を使ったトレーニング	ボウリング
55～64歳	ウォーキング・軽い体操	器具を使ったトレーニング	ゴルフ(練習場を含む)
65～74歳	ウォーキング・軽い体操	器具を使ったトレーニング	登山・ハイキング
75歳以上	ウォーキング・軽い体操	器具を使ったトレーニング	その他

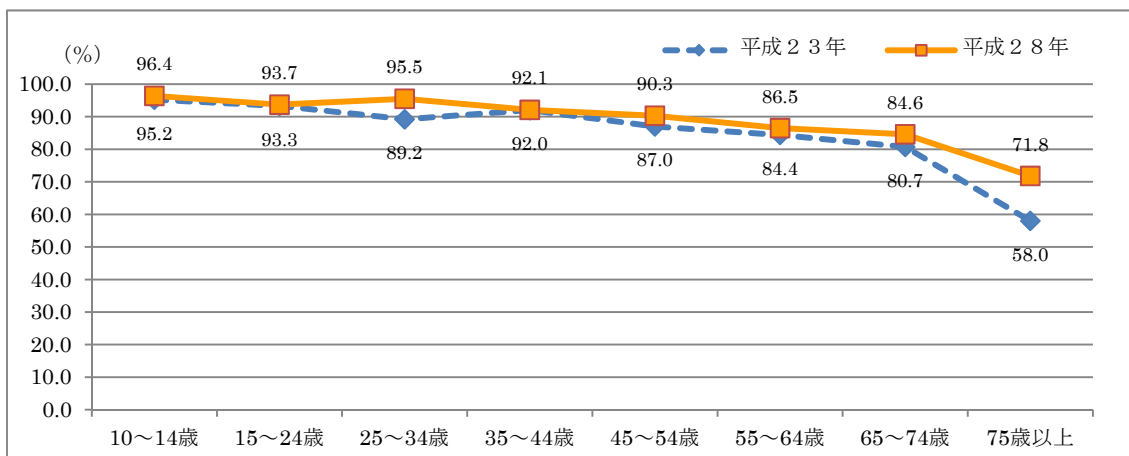
4 趣味・娯楽

「趣味・娯楽」の行動者率は88.0%で、5年前より3.4ポイント上昇

「趣味・娯楽」の行動者数は894千人で、行動者率は88.0%（全国87.0%）で平成23年と比べると3.4ポイント上昇している。

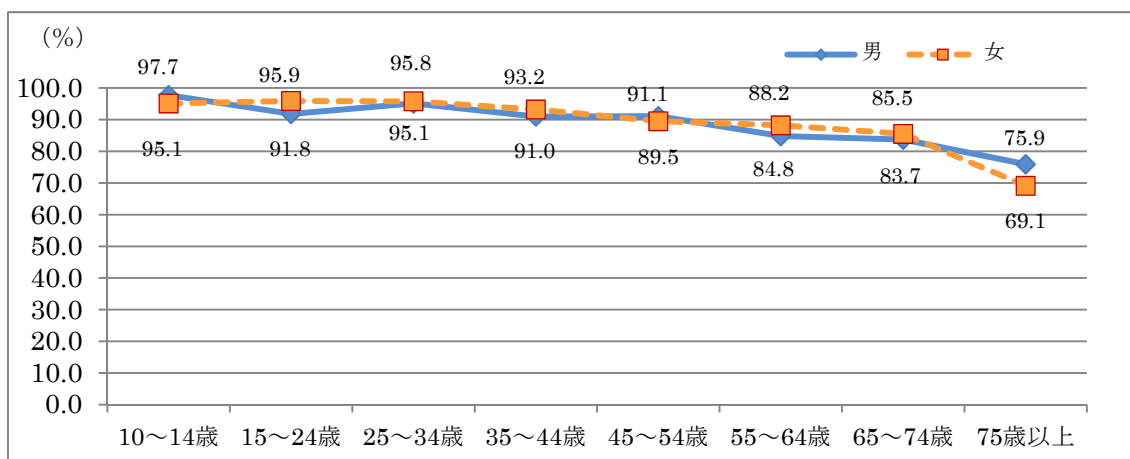
行動者率を年齢階級別にみると、10～14歳が96.4%と最も高く、年齢が高くなるにつれておおむね低下している。（図4-1）

図4-1 「趣味・娯楽」の年齢階級別行動者率（平成23年、平成28年）



行動者数を男女別にみると、男性が436千人、女性が458千人となっており、行動者率は男性が88.4%（全国87.2%）、女性は87.7%（全国86.8%）となっており、男性が10～14歳、45～54歳、75歳以上の年齢階級で女性より高くなっている。（図4-2）

図4-2 「趣味・娯楽」の男女、年齢階級別行動者率



行動者率は「映画館以外での映画鑑賞」が最も高い

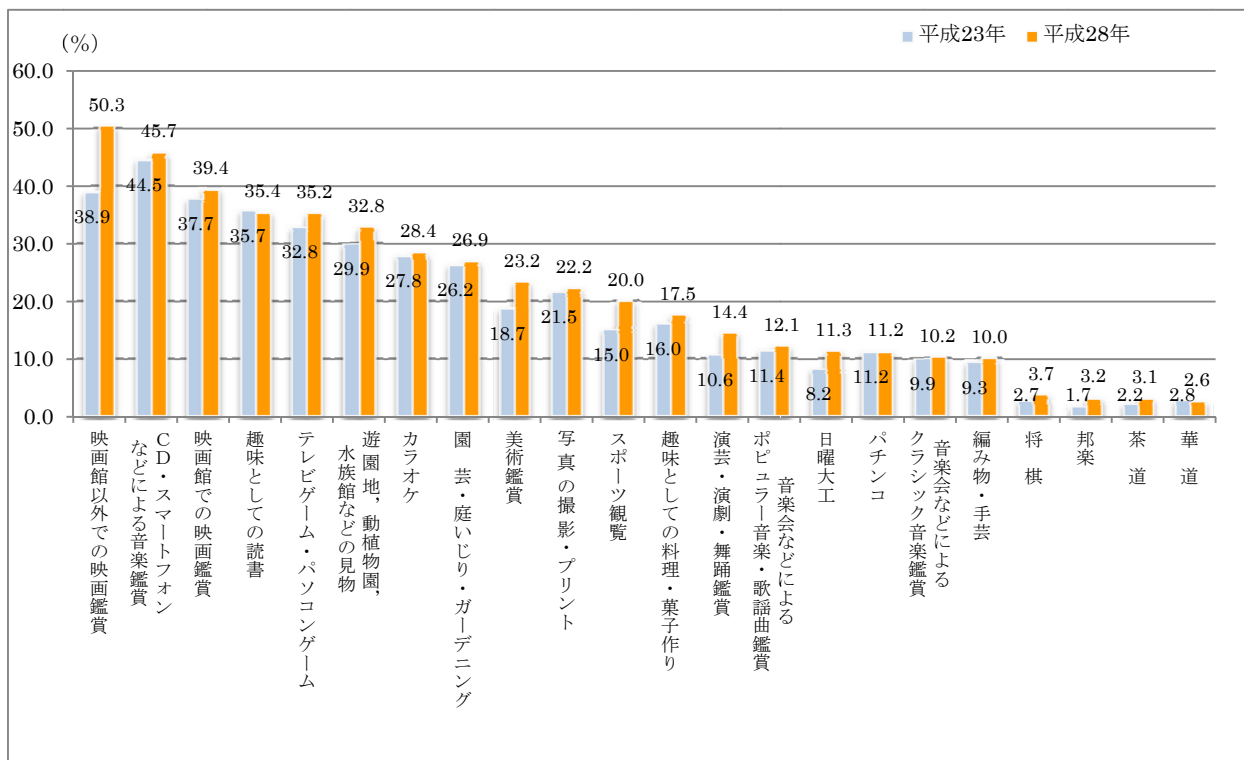
種類別行動者率をみると、「映画館以外での映画鑑賞」が50.3%と最も高く、次いで「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が45.7%、「映画館での映画鑑賞」が39.4%となっている。

これを平成23年と比べると「映画館以外での映画鑑賞」(*)が11.4ポイント、「スポーツ観覧」が5.0ポイント、「美術鑑賞」が4.5ポイント上昇などとなっている。（図4-3）

また、芸術・伝統文化の項目では、「茶道」3.1%（全国1.6%）全国1位、「華道」2.6%（全国1.8%）全国5位、「美術鑑賞」23.2%（全国19.4%）全国4位、「音楽会などによるクラシック音楽鑑賞」10.2%（全国10.1%）全国9位と、全国上位となっている。

※) 映画館以外での映画鑑賞は、平成23年は「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞（テレビからの録画は除く）」として調査、平成28年は「映画館以外での映画鑑賞（テレビ・DVD・パソコンなど）」として調査しており、定義の変更があるため比較には注意を要する。

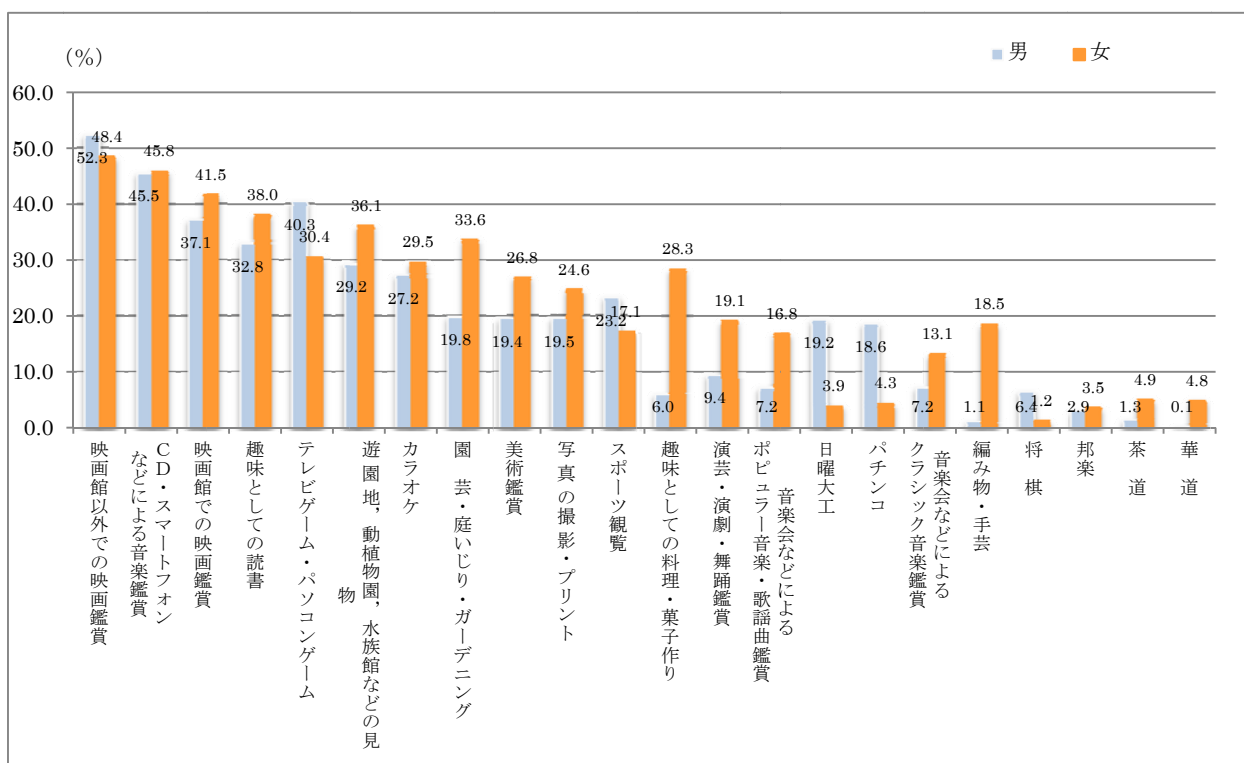
図4-3 「趣味・娯楽」の種類別行動者率（平成23年、平成28年）



注) 「趣味・娯楽」のうち主な種類を掲載

種類・男女別にみると男女とも「映画館以外での映画鑑賞」「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」などで高くなっている。男性は「日曜大工」で15.3ポイント、「パチンコ」で14.3ポイント女性より高くなっており、女性は「趣味としての料理・菓子作り」で22.3ポイント、「編み物・手芸」で17.4ポイント男性より高くなっている。(図4-4)

図4-4 「趣味・娯楽」の種類、男女別行動者率



注) 「趣味・娯楽」のうち主な種類を掲載

年齢階級別に行動者率が高い種類をみると、10～14歳では「テレビゲーム・パソコンゲーム」、15～44歳では「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」、65～75歳以上では「園芸・庭いじり・ガーデニング」が最も高くなっている。(表2)

表2 「趣味・娯楽」の種類、年齢階級別行動者率の順位

	1位	2位	3位
10～14歳	テレビゲーム・パソコンゲーム	映画館での映画鑑賞	映画館以外での映画鑑賞
15～24歳	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	映画館での映画鑑賞	テレビゲーム・パソコンゲーム
25～34歳	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	映画館以外での映画鑑賞	映画館での映画鑑賞
35～44歳	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	映画館以外での映画鑑賞	遊園地、動植物園、水族館などの見物
45～54歳	映画館以外での映画鑑賞	CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞	映画館での映画鑑賞
55～64歳	映画館以外での映画鑑賞	趣味としての読書	園芸・庭いじり・ガーデニング
65～74歳	園芸・庭いじり・ガーデニング	映画館以外での映画鑑賞	趣味としての読書
75歳以上	園芸・庭いじり・ガーデニング	趣味としての読書	美術鑑賞

5 旅行・行楽

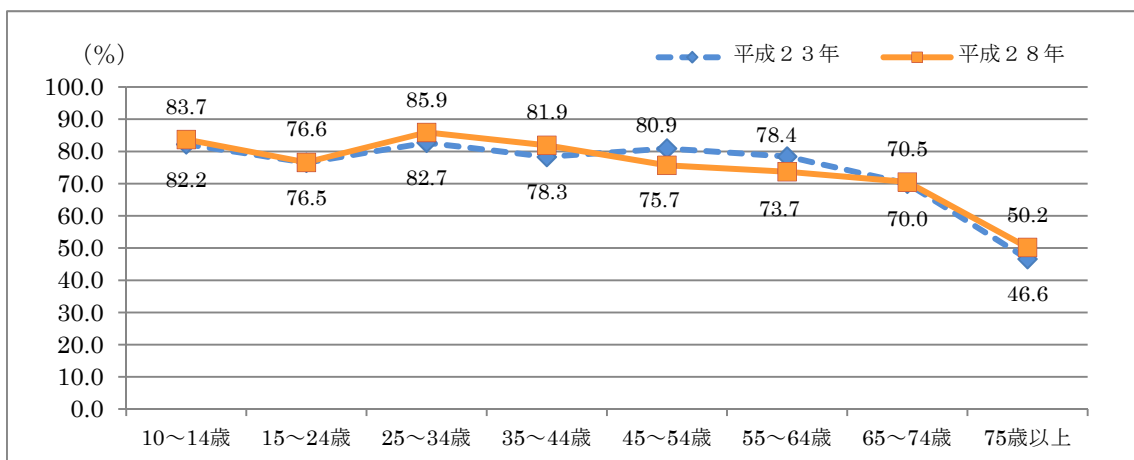
「旅行・行楽」の行動者率は73.9%で、5年前より0.5ポイント低下

「旅行・行楽」(※)の行動者数は751千人で、行動者率は73.9%(全国73.5%)で平成23年と比べると、0.5ポイント低下している。

行動者率を年齢階級別にみると、25～34歳が85.9%で最も高い。(図5-1)

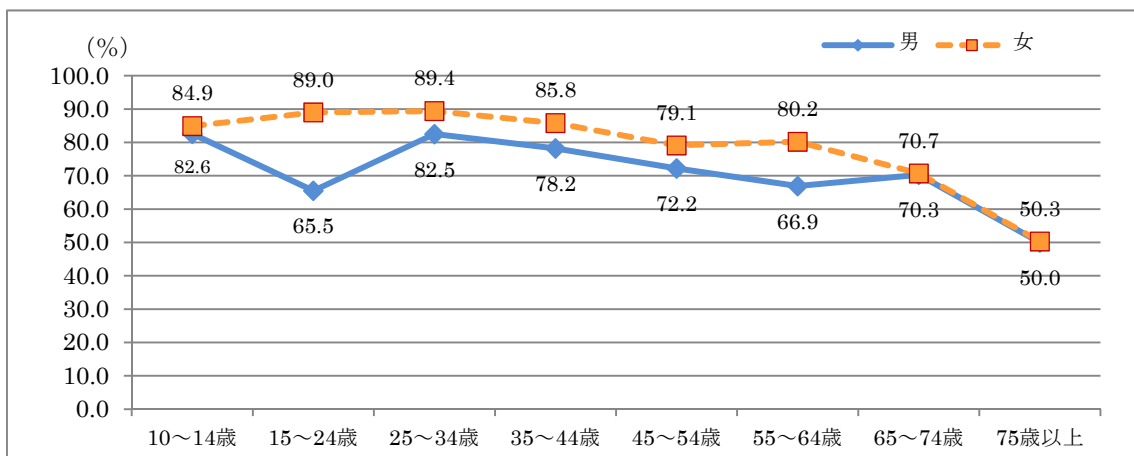
(※)平成23年は「旅行・行楽」に「業務出張・研修・その他」を含めて調査しており、比較には注意を要する。

図5-1 「旅行・行楽」の年齢階級別行動者率(平成23年、平成28年)



行動者数を男女別にみると、男性が349千人、女性は402千人となっており、行動者率は男性が70.7%(全国71.1%)、女性が76.9%(全国75.8%)となっており、女性のほうが、6.2ポイント高くなっている。男女別にみると、全ての年齢階級で女性の方が高くなっている。(図5-2)

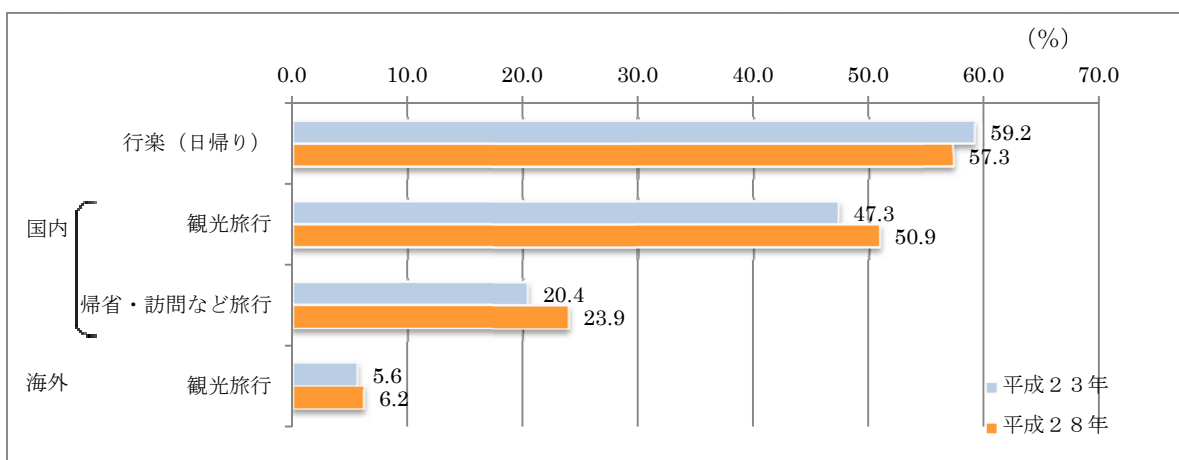
図5-2 「旅行・行楽」の男女、年齢階級別行動者率



行動者率は「観光旅行（国内）」が50.9%

種類別にみると、「行楽（日帰り）」が57.3%、観光旅行では、国内が50.9%、海外が6.2%となっている。これを平成23年と比べると、「行楽（日帰り）」は1.9ポイント低下となっているが、「観光旅行（国内）」は3.6ポイント上昇、「帰省・訪問などの旅行」は3.5ポイント上昇、「観光旅行（海外）」は0.6ポイント上昇となっている。（図5-3）

図5-3 「旅行・行楽」の種類別行動者率（平成23年、平成28年）



種類を男女別にみると、全ての項目で女性の方が男性より高くなっており、「行楽（日帰り）」では男性53.9%に対し女性60.4%と女性の方が6.5ポイント高くなっている。（図5-4）

図5-4 「旅行・行楽」の種類、男女別行動者率

